

氏名 竹内 暁美	派遣国 中国
派遣期間 平成29年4月～令和元年3月	派遣された在外施設 上海日本人学校浦東校
在外施設での分掌（学年や主な分掌など） 小学部6年担任→5年担任→6年担任、 学年主任	現在の勤務校 シニア

派遣された在外教育施設の様子

・上海には市内に2校の在外教育施設がある。私が勤務していた浦東校は小・中・高の併設で児童・生徒数も合わせると千人近く在籍している。児童の情報交換や学びの連携など学校種を超えた交流ができた。反面、3学部が共有するので施設の使用に制限があった。そんな中で、運動会や音楽発表会、全校縄跳びなど小学部の行事はどれも充実したものであった。特に運動会での表現運動はどの学年も発達段階に合わせた内容で、職員も保護者も楽しみにしている種目の一つである。

・小学部6年の北京への修学旅行では悠久の歴史を学んだり、少林寺武術学校の児童と交流したりして国内では得られない経験をたくさんすることができ、有意義なものであった。

<修学旅行北京故宮博物院にて>



派遣国の様子（文化や風習など）

・上海は中国の中でも大都市であり、世界の金融の中心都市である。そのため世界中の有名な銀行が集中している。日本人居住者も多く、銀行だけでなく日本企業や日系スーパー・デパート、日本食レストランなど多数あり、場所によっては、ここは日本ではないかと錯覚してしまうこともあった。

・中国各省から来た人が住んでいるので、レストランや商店で各省の味が堪能できる。同時に北京語 以外の中国語にも触れ合うことができる。

・買い物はほぼキャッシュレスで、アプリを提示しスキャンするだけで済ませることができる。公共交通機関・タクシーも同様で、財布を忘れるより、携帯を忘れる方が不安になってしまう。

<上海の中心地 外灘より浦東地区のビル群>



派遣国での生活の様子

・毎朝6時半に公寓（マンション）からバスが出ていたので、同じ場所に住んでいる職員が乗車して出勤していた。当初は朝が早くてきつかったが、慣れると快適な通勤であった。

・職員数が現地スタッフも合わせると100人近くいたので、名前と所属を覚えるのに時間がかかった。しかし、全国から集まってきたたくさんの先生方と情報交換や研修を通して、充実した質の高い指導を行うことができた。

・住居は市郊外の住宅街で、欧米系の駐在員が暮らしている所だったので、インターナショナルスクールや諸外国のレストランも多く、欧米的な雰囲気が感じられた。

・宅配のシステムが充実しており、日用品のほぼ全てが携帯からのアプリで注文することができる。スーパーの食品やレストランの出来立ての食事などもアプリから注文すると、すぐに配達してもらえるので、コロナ渦の外出制限下でも不自由はあまり感じなく、生き延びることができた。